寠れ蓑の日記序

我が衣川の大人の先つ頃、出雲の
大神拝みに物し給ひし、旅路の日
記は学びの兄弟なる国本道男が
早く請ひ求めて、板になん彫らし
めんとすなる。その年障ることありて
出雲の三保神社、伯耆の大神山などには

や都礼美能丶日記序

和可衣川能大人乃さ以川ころ出雲能
大神遠可ミ尓物し多万ひし旅路能日
記ハ学ひのはら可羅奈る国本道男可
はや久こひ毛登め手板丹なんえるらし
免んとす奈る　そ能年さハるこ登阿利天
出雲能三保神社伯耆能大神山奈と丹盤

得詣で給わざりしを、その又の年
振り延へて、三保神社、大神山にも詣
で給ひけるに、日記も書き給ひつやと問ひ
しかば、それも書きたりとて、笥の底よ
り取り出でて、見せ給ひければ、同じ
くは此度先の日記と共に板に彫
らせまほしくて、請ひければ許し給

えまう天給ハさ利し遠そ能又能登し
布利はへ天三保神社大神山丹もまう
天給ひケ類尓日記も書多まひ川やと登ひ
し可はそれも書多里と天笥能そこ与
利登利以天ゝ見勢堂万ひけ連ハ同じ
久盤こ多ひ佐幾能日記登と毛に板尓ゑ
良勢まほし久天こひケ連ハ由類し給

ひぬ。そもこの二記は世の人々の道の記
どもとは様代(さまか)はりて、古ごとの
あとどもの故由(ゆえよし)を、いささか書きつめて
教(さと)し給へれば、雅(みや)びごとのみかは
古(いに)しへ学びせん輩(ともがら)のいとよき
方便(たつき)ともなりなん物と喜ば
しく尊く覚えてこの由

ひぬ　そ毛こ能二記ハ世能人々能道能記
登毛とはさ満可は利天布類こ登能
阿登ゝも能由ゑ与し遠以さゝ可書川め天
さ登し給へ連ハ美やひこ登乃ミ加は
古しへ学ひ世ん登毛可ら能以登与幾
堂川幾登毛奈利奈ん物と与ろこは
し久多布登久おほえ天こ能与し

いささか記すになむ。

文政四年八月三日

因幡国加知弥神社神官　飯田秀雄

以さ佐可志る須尓奈む

文政四年八月三日

因幡国加知弥神社神官　飯田　秀雄